

中央情報通信

発行日 毎月15日

大日本生産党機関紙

第1399号 令和5年5月15日号

韓国大統領からのメッセージを読み解く ……………	本紙編集部…………	1
「習近平は熱心なマルクス主義者である」とポンペオ前国務長官…………		2
フィリピン政府が「親米」に急転換した理由 ……………		3
沖縄県「地域外交室」設置がもたらすもの ……………		3
東大阪市下の、ある中学校教育現場から〈15〉…………		4
仙台市に「不登校特例校」が開校 ……………		5
英国王戴冠式から見えてきた王室の危機 ……………		6

本 社 〒847-0871 佐賀県唐津市東大島町 19-5
電話 090-3199-8446 no.shin.7771008@gmail.com
賛助購読料 年額 3,000円 (年10回発行)
ホームページ <http://大日本生産党.com/>

発 行 所
中 央 情 報 通 信 社
編集長/谷田 透

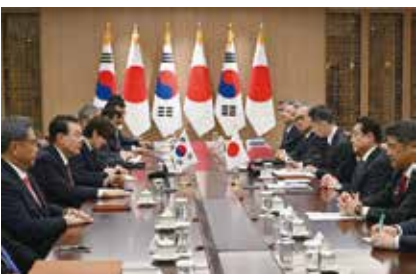
韓国大統領からのメッセージを読み解く

本紙編集部

日韓は史上最悪の外交関係から一歩前進し、何とか一般的な外交関係に修正が進み始めた。隣国同士が険悪であって良いはずはないが、韓国前大統領の「反日至上主義」によってこれまで両国関係は最悪の状態に陥っていた。

韓国は現在の尹錫悦大統領になってから、国内の「反日」を細かく確認しながら手探りの日韓関係改善を進めてきた。韓国内には、北朝鮮からの指令を受けている組織・団体が多く存在し、それらは前大統領の特別認可を受けていた「反日運動」の戦闘部隊だった。

現大統領は検察庁出身だけに公安情報は詳しく、慰安婦問題で反日を推進していた「正義連」（元挺身隊対策協議会）の尹美香を逮捕するために、まず秘書を北朝鮮スパイとして逮捕し、亭主とその妹を「一九九〇年スパイ事件」の国家保安法違反の逮捕者だと公表し、彼女に操られていた国内の左翼市民運動を切り離した。



北朝鮮から指令を受けて世論を反日に誘導していた「民主労総」や「全教組」が何をしていたか、北からの指令の内容まで白日の下に晒して世論を切り離した。

大統領の国民支持率が上がるまで待たず、その直後に「徴用工問題」を政治的に解決する道筋をつけ始めた。一九六五年の「日韓請求権協定」を基本に、合法非合法に拘わらず韓国側に対日請求権は無いとする外交約束を堅く守るとアピールしたのだ。

韓国内の財閥に基金を呼びかけ、日本からの寄付には丁寧なお断りをして、韓国だけで始末をつけると強いリーダーシップを見せたのである。

これは日本側にも強烈に響き、岸田首相

は日韓の雪解けを急がねばならないと周囲に語ったそうである。尹錫悦大統領の支持率は未だ低いままだが、韓国世論は「もう反日で振り回されるのは疲れた」という声が多く聞かれ、反日を愛国心のバロメータに使う卑劣な国民性が変化を見せ始めた。国民の本音は「反日をやっても就職に有利にならないから止めよう」といった処だろう。

まだまだ国内には「共に民主党」の反日分子や北朝鮮スパイが蠢いており、現政権も一般国民も安心は出来ないが、日本側の岸田政権が尹錫悦大統領の投げたボールをしっかり受け止めたことで状況は好転しつつある。アメリカ国務省も胸を

撫でおろしているそうだが、我が国内のネット反韓分子や中共スパイが「日韓友好」を何としても阻止しようと蠢いていることに不安は隠せないという。

噂では、アメリカの謀略機関が中国人組織を上海や広東で焚き付けて、共産党打倒を訴えて中共を揺さぶる計画が進められているとか。金さえ貰えば、命がけで反中共運動を展開する中国人は数万人はいるだろう。中国人の習性を知り尽くしている習近平は、アメリカの謀略機関が本気なら譲歩する考えのようだ。

我が国の周囲が日を追ってキナ臭くなっている今、日韓の連携は喫緊の課題であると考えられる。日本は岸田政権が韓国大統領の努力に応えたということで、韓国からの熱いメッセージは届いていると答えられるように、心の準備をしておくべきだろう。日韓関係が最悪から悪に戻っただけだという見方もあるだろうが、幼稚園児のわがままのような「アンチ主義」に振り回される世論であってはならない。

「習近平は熱心なマルクス主義者である」とポンペオ前國務長官

アメリカ前國務長官のポンペオが回想録を出版したが、そこには中国共産党と習近平に對する憎しみが溢れてている。

トランプ政権までのアメリカは、ホワイトハウスは親中派の砦だったそうだ。五十年間にわたるアメリカの親中政策によって、政治的には対立しても机の下で握手して良好な経済関係を結ぶという国家方針が定着していた。ある意味、円満な大人の関係が成立していたのである。両国が世界も国民も誤摩化して金儲けに邁進していたのだと、政権中枢に居たポンペオが証言しているのだ。

公式会談があった時、ポンペオ國務長官は習近平に對して「中国は近隣諸国を恫喝したり、賄賂を使って外国に仲間を作ったりすることは中止してほしい」と公式に申し入れたそうだ。習近平はその時、共産主義者特有の意味不明瞭な格言などを言い訳にするばかりで、感情を相手に見せてはならないという共産党のモデルを演じていたそうだ。アメリカの公式な申し入れを突きつけたポンペオが帰国すると、トランプ大統領に習近平からホットラインが入り、「あの敵対的な國務長官を更迭してくれ」と申し入れがあった。トランプ大統領は激怒して拒否し、その時から「反中共、反習近平」の姿勢を明確にするようになったそうである。



させるために警察・公安予算が倍増している。今では軍事費より治安維持費のほうが巨額になっている。

ポンペオはまた、バイデン大統領になつてからは中共に對する厳しさは控えられているので、アメリカ国民の間からは「対中強硬論」を待望する機運が高まっており、バイデンは習近平に厳しい態度を取らざるを得なくなつたことも指摘している。

だが、ポンペオの真意は「中国共産党と国民は別のものだ」という基本姿勢を忘れてはならないという部分で、中共九、四〇〇万人党员と十二億人民を一括して対中政策を取ろうとしているバイデン大統領は危険だと世界が気づくよう求めている。

バイデン政権になつてから、中共統一戦線部と深い関係になつて資金援助を受けているアメリカの高校が増えている問題は、白日の下に全て晒してから責任追及する必要性も指摘されている。バージニアの科学技術高校は中国解放軍傘下の学校から一〇〇万ドルの支援を受けているし、「トーマスジェファソン・パートナー基金」というアメリカの教育資金援助組織では、中共関係機関からいくつもの名義に分けて投資を受けている。中共統一戦線が純粋な善意で資金提供することは考えられない。資金を提供する以上、相応の見返りや依頼事項があると見るのが当然だろう。

ポンペオが調査した所では、習近平は熱心なマルクス主義者であり、修正共産主義や毛沢東主義を忌避し侮蔑していることが分かったそうだ。毛沢東も鄧小平も出来なかった「中国をマルクス主義国にする」と目標を立てているらしい。だから「外に對しては軍事力」を使い、「内に對しては警察力」を使うという基本形を守っている。

アメリカの教育機関への資金提供や投資を暗黙で了承しているのがバイデン政権なのである。厳しい取り締まり、禁止する法律にバイデン政権が踏み込めない理由にまではポンペオも言及していないが、バージニア州の教育長が中共資金を受けている学校などへ出向き、チャイナマネーと絶縁せよと言い渡した事実にはポンペオからの意向が感じられる。

フィリピン政府が「親米」に急転換した理由

二月六日にフィリピンの沿岸警備隊の艦艇に対し、中国海警局の軍艦からレーザー照射がなされた。照準を合わせて射撃する時のレーザー照射であり、フィリピンはその瞬間から準戦時体制に移行した。

アメリカに協力を要請してミサイル防衛を進め、日本に沿岸警備隊への艦艇供与を申請し、「アジア版NATO」の計画に積極的に参加する方針も明らかにした。フィリピンはその時まで、アメリカと中国との間で柔軟に生きてゆけると考えていたようだが、それは甘い

沖縄県「地域外交室」設置がもたらすもの

デニー沖縄知事の「沖縄が独自に外国と交流する」と外交宣言したのを受けて、沖縄県に知事直轄の「地域外交室」というイデオロギー発信部署が設置された。

沖縄県は過去にも、国連に対して「沖縄県民は琉球民族であり、本土から差別され不平等な待遇を受けている」と申し入れ、共産主義者が半数を占めると言われている国連人権理事会から日本政府に「沖縄の琉球民族は先住民族である」という訳のわからない指定が出されたことがある。政府は、沖縄も本土も「日本民族である」と答えたが、中共がスポンサーを務めている人権理事会からは合計六回も勧告が出された。沖縄県民と北海道アイヌは国内少数民族だと主張したいのは、旧社会党左派に属していた部落解放同盟等の左翼組織を中心とした「反天皇グループ」だけかもしれない。

沖縄県議会でデニー知事は、沖縄県が中国や東南アジア諸国に政治的な意見を直接伝える部署であると説明しているが、これは「スコットランドの反乱」と似ていて、一五〇年前から日本という国に属している琉球の歴史を歪曲して混乱させるものであろう。



考えだとマルコス大統領は思い知ったのだ。フィリピン国内の米軍拠点は五ヶ所から九ヶ所に増え、南シナ海の海上警備をアメリカと共同で行なうことも発表された。インドからは超音速対艦ミサイルが供与されることになり、南シナ海で中国海警局の軍艦が撃沈される日が来ることも現実になった。

「米中バランス外交」などは夢物語だとフィリピンが言い出せば、アジアは大きく動くこととなる。その頃に、アメリカは大統領選挙を迎えるのである。

琉球では、一部の王朝系貴族だけが豊かであり、九九%の民は搾取に泣いていた奴隷だったと言われている。そこに薩摩が乗り込んで王朝貴族を懲らしめてくれたから、当初民は拍手喝采で薩摩を迎えたが、その薩摩が王朝以上に搾取をするようになって、清朝の支配下にあると言っていた王朝が皇帝に助けを求めたが「薩摩が相手では清朝に多大な被害が出るから出兵しない」という結果になった。それから維新直前の琉球藩を経て明治維新政府の支配下になり、大陸から来た「久米人」は琉球名に変えて姿を消し、九九%の民はそのまま日本人となって現在に至るとい

流れなのだ。

このような不名誉とも言うべき歴史を持っている沖縄は、地政学上の理由から敗戦後はアメリカの支配下になり、日本における「差別歴史の型紙」と呼ばれる位置付けになっている。その地域や部落の歴史がどれほどの差別なのかは、琉球の歴史に重ね合わせて判断するのが理解しやすいものとなっている。解放屋とか人権屋と言われる似非運動が差別歴史を叫んでも、琉球の型紙を乗せたら「違う」と判るはずだ。

沖縄県域外交室では、今年度から世界に向けて「沖縄県に米軍基地が集中している」と不当性を訴えるそうだが、余り逸脱し過ぎると中共だけが喜ぶ結果になることだろう。琉球が清朝の冊封を受けて属国だった歴史も、薩摩が砂糖を独占するために琉球を攻めたことも、幕府が倒れる寸前に琉球藩として

東大阪市下の、ある中学校教育現場から《十五》

東大阪市では道徳教科書として日本文教出版が採用されており、それに沿った授業を展開することが基本になっている。今回、沖縄関連の教材を探したところ「肝心（ちむぐる）のバスガイド」なる話を見つけたが、相変わらずの一面的かつ偏向的内容だった。そこで大東亜戦争における沖縄戦に関して学ぶ際、決死の特攻隊が「いかなる形の講和になろうとも、日本民族がまさに滅びんとする時に当たり、己の身を以てこれを防いだ若者たちが居た」という歴史の残る限り、五百年後、千年後の世に必ずや日本民族は再興するであろう」という、身を殺しても仁を為す精神にも

支配下に入れたことも、明治維新政府が歴史検証することなく横滑りに沖縄県としたことなども、全てを机の上に乗せてからデニー知事は沖縄の未来の為に語ってもらいたいものである。辺野古移設問題や南西諸島防衛問題など、日米安保で飯を食う保守層の一部とだけ喧嘩していても、誰も幸せにはなれない。

また、「古事記」には玉川中学校校歌の歌詞に登場するらぬ高が崖が載っています。この高が崖は戦時中、山崎の空襲で壊れてしまいました。

よしよよ
～僕らの物語～
山口采希

玉川中学校の歴史です
1945年10月の沖縄戦で玉川は日本軍基地として、島が陥落し、島民は避難生活を余儀なくされました。戦後、島民が戻り、島は復興しました。この島に語り継がれる歴史があります。

玉川東大阪市には約1000年前の記録にも残っている場所があります。

岩田の民話
「岩田の民話」は、岩田の歴史を伝えるための民話集です。この民話集には、岩田の歴史を伝えるための民話集が載っています。

注目させるべきと考えた。そこで、沖縄戦と特攻隊の意義を教えるために Youtube 映像を数点視聴させることにした。

さらに、この題材の狙いとして指導書に「先達のおかげで今の暮らしを営むことができることへの尊敬の念や感謝の気持ちを深め、主体的に郷土に関わろうとする態度を育てる」とあったため、郷土玉川地区のことに触れることにし、玉川中学OGにして愛国の人気歌手山口采希さんにもご登場いただいた。

ここでは、教材および自主教材の画像と、この授業に対する生徒たちの感想を抜粋させていただきます。

○沖縄って言われたら、海やきれいな景色の反面、悲しい物語があつて、中でも一番悲しいのは戦争だとあらためて感じました。自分と同じくらいの子が戦地に送られ、特攻隊になり、そして家族や大切な人にはもう二度と会えない。遺書には「自由」と沢山書いてありました。自由を求め戦った勇敢な人たちに感謝と日本の誇りでしかありません。

○人を苦しめる戦争は二度と起こってほしくないです。でも、沖縄の人たちがいたからこそ、今の僕がいるんだなと思いました。

○自分のふるさとを愛して、ふるさとの為に

<p>沖縄戦のあまりにも尊い犠牲は、しかし、日本を危機から救い出すことにもなった。沖縄戦での連合軍は、自軍の損害の大きさに驚き、予定されている日本本土への全面的な侵攻作戦を心配した。</p>	<p>日本軍は戦艦大和をくり返し、最後の海上特攻隊を編成させたが、大和は沖縄に到達できず、撃沈された。沖縄では戦艦沈没時の少年や少女が戦艦の少女たちまでが勇敢に戦って一戦仕度約九万四千人が生命を失い、十万人に迫る死者が戦死した。</p>	<p>1年道徳 ちむぐる 「肝心」のバスガイド 教科書p182</p>
<p>間もなく、連合軍がかつて意図していた日本の無条件降伏の実現は断念され、ポツダム宣言という形で「有条件降伏」の提案が行われ、こうして講和への道が開かれた。</p>	<p>沖縄師範女子部と県立第一高等女学校の生徒194名が祀られている「ひめゆりの塔」</p>	<p>「沖縄観光」と聞いて思い浮かぶものはなんだろう ワークシートに記入しよう (1分) iPadで壁面動画に入れよう</p>
<p>山口采希 「今、僕ら」</p>		<p>沖縄戦を語る</p>
<p>みなさんは今、東大阪市で暮らしています。すなわち、みなさんにとって、東大阪市は郷土(ふるさと)と呼べる存在です。</p> <p>玉川中学校校長 山口采希氏 路上ライブ「ふるさと」</p>		<p>沖縄戦を語る</p>

仕事してとてもすごいと思いました。私もふるさとを大切に出来る人になりたいです。

○戦争があれば、一つの故郷がなくなるなんてとても嫌だなと思いました。諦めないことも大事だなと思いました。故郷を大切にしたいなと思いました。

○東大阪にも、知らずにいっぱい良いところがあるんだと知った。沖繩の人が地元の歴史や民謡などの文化を大切にするように、私も東大阪のこともっと知って大切にしたいと思った。

○沖繩戦争で犠牲者が出て可哀想と哀れむん

仙台市に「不登校特例校」が開校

フリースクールと呼ばれるNPO団体やボランティアが運営する不登校生徒を対象にした施設は全国にあるが、仙台市の場合公立校であり、カリキュラムも卒業式も存在する。宮城県には三校が開校するが、これは県内の不登校生徒の数が余りにも多くなってきたことへの大人たちの焦りと恐れがあるからだ。小中学校生徒一、〇〇〇人当たり三〇人以上の不登校を抱えているのは深刻だ。

問題は、ここではどんなカリキュラムが用意されているかであるが、通常授業も行なわれるが、その授業中であつてもスポーツ、芸術、クラブ活動など何に打ち込んでも勝手だという「異常な放任主義と過保護」が認められていることだ。

不登校というのは、個別具体的に状況も事情も様々なので一括するのは難しいが、それを逆手に取るような自由放任を自主的と言いつ換える当局の扱さはいただけない。

仙台市太白区の学校が開いているのは週に三日だけで、生徒は好きなことを選んで学校に滞在していれば良いとされている。学校に「不登校生徒の居場所を作る」というコンセプトのようだが、それは大人たちの言い訳ではないのか。



じゃなくて、今米軍基地の補給場所に沖繩県が利用されていることに対して「どうしようか」と目を向けてほしい。着目点が変わらない過去ばかりで哀れむより、今の問題をまずは考えるために、沖繩戦争可哀想から現在戦争のせいで本当の日本として沖繩県の人達が暮らせていないことに目を向けて戦争は「よくないな」と思っただけで済ませたい。○沖繩の海を汚なくないようにゴミを捨てたりポイ捨てしない。○今とは、先人たちの血と汗の結晶ということ。(以下省略)

不登校特例校というのは、学校教育上の学校であり、現状で不登校の生徒たちは転校申請を出して「公式に転校する」ことになる。現状三〇日以上欠席があれば、校長の判断で特例校への転校が打診されることになっていく。

果たして、そうまでして不登校生徒に学校に集まっていなくてもらう必要があるのだろうか。学校が嫌いな理由は様々あるが、不登校と引きこもりという社会問題を混同しているのではなからうか。大人たちや当局側の焦りは痛いほど解るが、不登校特例校は将来的に社会と本人にどんなメリットがあるのだろうか。学校に居場所を作るといえるのは善意で考えられたものであろうが、居場所が学校でなければならぬ理由とは何なのか。

十年ほど前にフランスのドキュメンタリー映画で「世界の果ての通学路」という作品があった。インドのスラムの兄弟は、スクラップの車椅子に身体障害者の兄を乗せ、小さい弟が四キロの道のりを毎日通学していた。学校で、将来の為に役に立つ知識や技術を授けて欲しいから苦労しても学校に行くと書いていた。モロッコの女の子は、全寮制の二〇キ

口離れた町の学校へ月曜日に登校するのだが、その時には一週間分の寮での自分の食料を持参しないといけないので、家で飼っている鶏を一羽持って登校し、途中の露店で一週間分のパンや果物と交換してもらおう。金曜の授業が終われば、また二〇キロの道を手まで帰るのだ。将来は医者になって、私のように貧しくて病院にも行けない人た

ちを治したいのだと笑っていた。学校とは、授業とは、そういうものではないのか。日本人が優しいことは有り難く立派な事であるが、過ぎたるは及ばざるが如しである。優し過ぎて、本来の学校が見えなくなった時、教育というものの本質も分からなくなるだろう。

英国王戴冠式から見えてきた王室の危機

五月六日に七〇年ぶりに英国王の戴冠式が行なわれた。伝統的な作法で挙行されたことは喜ばしいが、「英国王は人気商売」という歴史的な言い回しをするなら、今回の戴冠式から人気の衰退が顕著になっていることを隠せなくなった。

英国は、イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランドを合わせたユナイテッド・キングダム(UK)の事だが、先代の女王の時代まではコモンウェルス諸国もUKのメンバーに数えられていたから壮大な勢力圏を維持していた。

ところが、ダイアナ妃の問題から王室は権威を徐々に失墜させてゆき、ダイアナを支持する人々からは王室の治外法権を批判する意見が堂々と出されるようになった。今回のチャールズ国王の記念コンサート出演を依頼されたエルトン・ジョンは「私はダイアナの友人だから」と言って出演を拒否したそうだが、先代の時代なら、庶民が王室に堂々と衝突するようなことはタブー中のタブーだった。

世論調査の結果を見ても、君主制に疑問があるとか、王室経費が莫大過ぎるなどの回答が急増しているが、王室そのものが不要だという意見は少ない。一度失えば取り返しがつかなくなることは、凶らずもロシアのプーチンがソ連崩壊後に語っている。ロシアのロマノフ王朝が共産党に絶滅させられてから、そ

の血は絶えたのだとプーチンが嘆いたという話が残っている。

英国王室は欧州王室連合の頂点にして、世界王室連合の中心的存在でもあった。第二次大戦後には、チャーチル首相の外交努力によって、王室の権威が落ちることは無かった。だが今の英国王室を政治的外交的に誰が支えるのか。

王室の暴露本を数億ドルのギャラで引き受けた不良の次男は、今も王位継承権を持っているのだから庶民としては納得できないだろう。口さがない右翼に言わせると、母親(ダイアナ)も不倫の果てに王室から追放されたが、息子も母親の血を引いているのだと否定的なコメントをする。つまり、右翼の中には、チャールズが最後の国王だという諦めがあるのかもしれない。

英国の王室権威が失われることの影響を、我々としても真剣に考えなければならなくなっている。エリザベス女王時代に、あれほど親しく親戚付き合いしていた「旧敵国」なのだが、今では日本と英国とは切り離せないほど近い関係になっている。

「英国王は人気商売」という歴史を守ってきたのは、政治的外交的に敏腕プロデューサーが存在していたからだと認識し、それを担える人材が「王室守護者」となることに気づかなければならないだろう。

